

130107 寒の内(ヒタキ)

1月5日は、二十四節気の「小寒」(しょうかん)、いよいよ「寒の入り」です。

一年でもっとも寒いこの時期のことを「寒」(かん)と言い、「小寒」から始まるので「寒の入り」なのです。

「小寒」の後には「大寒」が控えているのですが、この日から1ヶ月ほど後の「節分」まで「寒の内」が続き、寒稽古や寒中水泳が行われる時期になります。

さて、「小寒」から四日目を「寒四郎」といい、この日の天候がその年の麦作の収穫に影響があると信じられており、「麦の厄日」だそうです。

また、九日目に降る雨は「寒九の雨」と呼ばれ、「豊作の兆し」との言い伝えがあるそうです。

今回紹介するのは、冬の探鳥会での「人気者」**「ジョウビタキ」**と**「ルリビタキ」**です！
いずれの大きさも14cmほど、スズメと同じくらいです。

この時期の鳴き声は、**ジョウビタキ**は「ヒッ」「カッカッ」などで、一方の**ルリビタキ**は「ヒッ ヒッ」という「地鳴き」です。

美しい声で鳴く「さえずり」は、主に繁殖期の鳴き方です。

ジョウビタキの繁殖地は中国北部・中部の山間部やサハリンなど、一方の**ルリビタキ**は国内で繁殖するのですが主に標高1,500mを超える亜高山帯の林になりますので、なかなか彼らの「美声」を聞くことは難しそうですね。

写真 : ジョウビタキ(雄)

写真 : ジョウビタキ(雌)

写真 : ルリビタキ(雌)

雄の若鳥かも知れません。
生まれてから1年目の雄は全体に地味な茶色で、雌に酷似しています。

写真 : ルリビタキ(雄)







